

〈研究課題名〉	E-0808 (Hc-088)	低炭素社会の理想都市実現に向けた研究		
<p>〈研究概要〉</p> <p>2050年にCO<sub>2</sub>排出量を半減、人口減少社会に対応可能な都市空間を、特徴ある地方都市で実現するためのロードマップと、2050年における「低炭素社会の理想都市像」を提示することを目的とする。水系全体をもつ地方都市、大都市郊外都市、地方交易都市、地方工業都市など5都市を対象とし、そのうち2都市についてCO<sub>2</sub>排出量の要因を探った上で、省エネ化手法を提示し、市民参加の場を持ちながら、詳細なCO<sub>2</sub>削減手法の提案、及び都市全体のCO<sub>2</sub>削減評価を行い、ロードマップを作成する。また、全5都市についてはその手法を応用し、2050年の「低炭素社会の理想都市イメージ」を提示する。</p> <p>(1) 低炭素社会における各手法の効果シミュレーションによる理想都市像の提案 2050年における「低炭素社会の理想都市像」を提示するため、以下(2)～(4)のサブテーマの研究を総合化して全体像を示す。各サブテーマからあげられた論点をまとめる。バックキャスト手法により2050年に至るロードマップを作成する。</p> <p>(2) 低炭素社会におけるモデル都市イメージの提案 都市構造論の視点から、2050年の人口縮小、高齢化社会に対応した行政区域全体を都市構造や都市インフラについて大きく捉え、都市空間イメージの提案を行う。特に近年、環境配慮型といわれるコンパクトシティについて、どの程度、低炭素化に有効なのか地方都市の長岡と東京郊外の柏市をもでるにとして検証する。</p> <p>(3) 低炭素社会における市民社会・都市政策に関する提案 2050年における、「低炭素社会の市民生活・コミュニティ像と都市政策」を提示する。社会・環境問題における、生活、経済活動、行政・市民組織、法制度などの社会システムのソフト課題を明らかにし、市民の生活様式やそのコミュニティ像を描き、将来の都市政策を提示する。実際に福生市、北九州若松区では市民や行政との討議の中から草の根的に調査を展開し、政策を結びつける。また、土浦市では高齢化によるケアの問題を扱い、都市空間のソフトの提案を行う。</p> <p>(4) 低炭素社会における建築・環境工学手法に関する提案 2050年における、「低炭素社会の建築施設像」を提示する。土浦市をモデルとして、都市の将来の課題を把握し、それらに対応する地区毎のマネジメントや政策を提案し、併せて低炭素社会を形成する建築施設的设计指針をまとめる。</p> <p>(5) 低炭素社会における建築・都市・市民生活のエネルギー評価 2050年における「低炭素社会の総合評価手法」を提示する。(2)～(4)のサブテーマの研究を基に、環境負荷の抑制と快適な生活空間の実現に向けて、3D-CADを用いた街区スケールの熱環境、エネルギー消費量、CO<sub>2</sub>排出量の予測・評価手法を提示する。</p>				
〈研究代表者〉	中村 勉	社団法人日本建築学会低炭素社会特別委員会 総括研究員（63才）		
No.	サブテーマ名	氏名	所属機関名・部局・役職名	
(1)	低炭素社会における各手法の効果シミュレーションによる理想都市像の提案	◎ 中村 勉	日本建築学会低炭素社会特別委員会 総括研究員	
(2)	低炭素社会におけるモデル都市イメージの提案	○ 大野 秀敏	東京大学新領域創生科学研究科 教授	
(3)	低炭素社会における市民社会・都市政策に関する提案	○ 糸長 浩司	日本大学生物資源科学部 教授	
	①市民生活・社会と都市政策の融合化	○ 深沢 大輔	日本建築学会低炭素社会特別委員会 特別研究員	
	②土浦市における低炭素社会モデルの提案	◎ 中村 勉	日本建築学会低炭素社会特別委員会 特別研究員	
(4)	低炭素社会における建築・環境工学手法に関する提案	○ 小玉 祐一郎	日本建築学会低炭素社会特別委員会 特別研究員	
		○ 岩村 和夫	日本建築学会低炭素社会特別委員会 特別研究員	
		○ 宿谷 昌則	日本建築学会低炭素社会特別委員会 特別研究員	
		○ 澤地 孝男	日本建築学会低炭素社会特別委員会 特別研究員	
(5)	低炭素社会における建築・都市・市民生活のエネルギー評価	○ 梅干野 晁	東京工業大学 総合理工学研究科 教授	